

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう
ロータリーのもとで』

会長 中目 公英
幹事 兼子 英聡



ロータリーは
世界をつなぐ

2019～2020年度国際ロータリーテーマ



第1626回例会

令和2年6月18日 (12:30～13:30)

○ソング

- 我等の生業

○スマイルBOX

- 中目公英会長（今日の例会にご参加いただきお顔を拝見でき、うれしく思います。一年間の会長回顧をさせていただきます。会員の皆様のお一人お一人に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。）
- 永野文雄会員（とりあえずスマイルです。）
- 吉野敬之会員（昨日は永野さんと楽しいゴルフをさせていただき、お小遣いいただいたのでスマイルさせていただきます。永野さんゴルフバックは無事でしたでしょうか？）
- 富永章会員（中目会長、兼子幹事大変な1年間御苦労さまでした。）
- 成井正之会員（中目会長、兼子幹事一年回顧ありがとうございました。終わってみれば一年間は早いものですね。一年間、ご指導に感謝致します。）
- 佐藤清作会員（中目会長さん、兼子幹事さん、新型コロナによる緊急事態宣言が発せられるなど大変な年度でした。一年間ご苦労様でした。）
- 佐藤幸彦会員（中目会長、兼子幹事、1年間ご苦労様でした。中目会長、還暦おめでとうございました。）
- 根本あゆみ会員（中目会長、兼子幹事1年間お疲れさまでした。来週の慰労会欠席になりますので、今週スマイルさせていただきました。）
- 熊澤直紀会員（結婚記念日の御祝、誠にありがとうございました。）

▶第1626回例会出席状況 (R2年6月18日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	24名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	9名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	33名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	53
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	62.27%



▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

中目公英会長

皆さん、こんにちは。今日も例会に参加していただき、ありがとうございます。本日のプログラムは会長一年回顧ですので、この会長の時間では手短かにいたします。まず、先週の例会の翌日、クラブを代表して諸橋さんの御見舞をマルミ商会で仕事をされている奥様に手渡して来ました。このコロナ禍で病院には行けませんので。でもすぐに諸橋さんからメッセージでご連絡いただき、「この骨折の機会に十分に骨休みさせてもらいます」とのことでした。皆さんもメッセージを通して御見舞のことばをさしあげてやって下さい。次に、この前の日曜日に、米山奨学生のアナ・ナダ・トゥンさんとお会いしました。カウンセラーの阿部克弘ご夫妻がアナ・ナダ・トゥンさんを白河にお呼びして、一緒に観光とあちこち連れて白河の魅力を伝えていただきました。その折、南湖神社にもお越しになっていただき、たまたまわたくしは本業の神主の格好をしていて、ミャンマーは仏教国ですので大変珍しげに、「この人何をやってるの」みたいな顔をして見られたのが大変印象的でありました。この次の例会でアナさんがお越しになりますから、是非皆さん参加してアナさんに一言励ましの言葉をかけていただければと思っております。以上、簡単ではありますが先週から今日までのクラブの会長としての動きをご報告をさせていただきます。今日もどうぞよろしくお願いたします。

■幹事報告

兼子聡幹事

- 代表世話人 平井義郎、鈴木和夫、相楽元章：芳賀裕ガバナー・石黒秀司ガバナーエレクト引継会
- 2020-21年度ガバナー事務所：2020-21年度ガバナー公式訪問「会長・幹事」の協議会
- 特定非営利活動法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議：猪苗代湖天神橋松橋漂着水草回収活動ボランティア活動
- 全国ロータリークラブ野球大会 東北地区コミッシュナークラブ 仙台東ロータリークラブ コミッシュナークラブ 岩山伸次 事務局福島ロータリークラブ 久米允彦：全国ロータリークラブ甲子園野球大会東北地区親睦野球大会 令和2年度東北地区野球大会開催について（お知らせ）
- 郡山南ロータリークラブ会長 佐久間源三郎、幹事 町田章：郡山南ロータリークラブ2019-20年度第40回例会
- 白河赤十字奉仕団委員長 安澤荘一：街頭献血における献血ボランティアの中止について（お知らせ）
- しらかわ駅伝競走大会実行委員会 会長 白河市長 鈴木和夫：第25回しらかわ駅伝競走大会実行委員会総会資料について
- 代表世話人 平井義郎：芳賀裕ガバナー・石黒秀司ガバナーエレクト引継会中止のお知らせ

■本日のプログラム

一年回顧

○クラブ奉仕委員会Ⅱ

鈴木孝幸委員長



皆さん、こんにちは。クラブ奉仕委員会Ⅱの回顧をいたします。クラブ奉仕委員会Ⅱに所属する、親睦委員会、プログラム委員会、雑誌広報委員会、クラブ会報委員会、IT委員会、スマイルボックス委員会、シスター委員会の各委員会の方々、この一年間コロナウイルスに翻弄されながらも役割を全うしていただきまして、本当にまずもって感謝申し上げたいと思います。年度後半は、休会を余儀なくされることも多々ありましてなかなか会長のもとにコロナで苦しむ外食産業を営む我々ロータリーの仲間を配慮しまして、急遽お友達プロジェクトを実施されたことは大変有意義であったと思いますし、またそれによってロータリーの友情を感じることができたと思います。最後ですね、コロナ禍の早期の終息と次年度35周年、吉野・堀田年度の成功を願ひまして委員会回顧いたします。どうもありがとうございました。

○クラブ奉仕委員会Ⅰ

吉野敬之委員長



それでは、クラブ奉仕委員会Ⅰの回顧のほうを申し上げたいと思います。当委員会は、会員増強委員会、出席委員会、ロータリー情報委員会、中長期戦略策定委員会の4委員会を担当させていただきました。中目会長の「共に手をつなごうロータリーのもとで」というクラブ目標を達成するために、高島裕委員長、阿部克弘委員長、宮本多可夫委員長、成井正之委員長の4委員長と一緒にご尽力をいただいたところでございます。大変一年間に渡りまして、各委員会、委員の皆様、それと委員長の方々におかれましては、活発な活動を展開していただきまして誠にありがとうございました。特に前年度は、中目会長が提唱されました定款並び細則の改定に関しまして、中長期戦略策定委員会におきましては非常にご尽力いただきまして特筆して感謝を申し上げるところでございます。また、わたくし自身は会長エレクトの立場としてその立場を深く自覚し、我がクラブの運営全般に目を向け中目会長を補佐しつつ自己研鑽に努めるように努力をしてまいりました。まだ努力は足りないかとは思いますが、今年度は皆さんご存じのように例会が2か月に渡って中断されるというような非常に異常な状況の中で活動を強いられたわけですが、その点におきましてはエレクトといたしまして補佐しきれなかったなあとというふうなところを非常に反省してるところではございます。次年度はクラブ会長として、皆様と共に素晴らしい35周年を迎えられるよう、またこのようなコロナ禍で異常な事態で例会並びに各種活動が続く中、皆様のクラブ活動ができるだけ安定的に協力を推し進められるように補佐をするという事を第一義と持ちまして努力してまいりたいと思いますので、皆様方のご協力、お力添えをお願い申し上げましてクラブ奉仕委員会の回顧とさせていただきます。ありがとうございました。

○会長一年回顧

中目公英会長



それでは改めまして、今日のプログラムのメインであります会長の一年回顧を申し上げますと思います。いつも右左に話題が飛んでしまいますので、文章を書きまわりましたからそちらのほうを読まさせていただきますと思います。

2019-20年度、第34代の会長の大役を承り、一年間の任期を勤め上げて、2020-21年度、第35代の会長にそのバトンを無事につなぐことが出来ました。我がクラブの会員の皆様方の多大なるご協力とご支援に対し、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

国際ロータリーの今年度の「ロータリーは世界をつなぐ」というテーマを受け、会長として「共に手をつなごう、ロータリーのもとで」というクラブテーマを掲げました。そして、このクラブテーマの精神を具現化する為に、国際ロータリーとその第2530地区が新たに定めた戦略計画と年次目標に準拠しつつ、我がクラブにも次の三つの重点活動目標を立て、その下にさらにいくつかの具体的な運営方針を設定しました。その重点目標とは次のものです。

- I) 人びとが手を取り合うのを促そう。
- II) 行動しよう。
- III) ロータリー賞に挑戦しよう。

これらの重点活動目標と具体的な運営方針に則りつつ、今年度の諸事業を実施しましたので、ここで振り返ってみたいと思います。

I) 人びとが手を取り合うのを促そう。

①ロータリーとつながろう。

国際ロータリーの理事会により、2019-24年度の戦略計画と2019-20年度の年次目標が採択され、革新性と柔軟性を盛り込んだロータリーの未来像（ビジョン）が明示されました。また、2019年4月の国際ロータリー規定審議委員会では、標準ロータリークラブ定款と推奨ロータリークラブ細則が改定されました。こうした国際ロータリーの動きを、ロータリー情報として会員全員に伝え、その内容を学びました。

我がクラブでは今年度、戦略&IT委員会を、中長期戦略策定委員会とIT委員会に分離独立させ、それぞれの委員会に明確な目的を設定しました。特に中長期戦略策定委員会は、かねてより国際ロータリーが各クラブに対してCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）導入を推奨していたことを取り入れたものです。

宮本多可夫委員長を始めとする中長期戦略策定委員会の方々には、我がクラブの定款並びに細則を、最新の標準定款と推奨細則に合致させるべく改正する為に、多大なる力を発揮されて、それらの原案を作成していただきました。11月28日の臨時総会で、新しい我がクラブの定款と細則が満場一致で可決され、クラブの組織編成が新たになり、我がクラブ自体がリニューアルされることとなりました。

②会員同士がつながろう

何といたっても、ロータリー活動の基本中の基本は例会にあります。

吉田充委員長を始めとする会場監督（SAA）委員会の方々には、楽しい例会にしようとの熱い思いから、今年度はボリューム満点の松花堂弁当スタイルの食事を採用していただき、毎回食事が楽しみとなりました。また、芳賀裕ガバナー公式訪問では、楠本憲吉作詞・古関裕而作曲の「日も風も星も」という新しいロータリーソングを歌おうと、会員全員で何回も練習したことも楽しい思い出となりました。

櫻岡敏行委員長を始めとするプログラム委員会の方々には、ロータリーの月間テーマに沿った例会は勿論のこと、多彩な外部卓話者を多数招聘されて、内容豊かな例会の時間を沢山作り出していただきました。

須藤正樹委員長を始めとする親睦委員会の方々には、納涼例会とクリスマス例会とが共にグランドエクスプ那須白河での設営とするなど、特色を出していただきました。毎月の会員誕生日や結婚祝いの準備、ホームミーティングの班編成など、会員相互のつながりの基礎となる親睦活動を、しっかりと盛り上げていただきました。

阿部克弘委員長を始めとする出席委員会の方々には、毎週、例会出席率算出と報告は勿論のこと、今年度から変更になったメックアップを確認したり、100%出席例会を達成しようと会員に出席依頼の電話をしていただいたり、出席率向上に努めていただきました。

山田顕一郎委員長を始めとするスマイルボックス委員会の方々には、我がクラブの社会奉仕活動資金を捻出するためというスマイルの意義を、何度も会員に啓蒙していただき、喜んでスマイルを出せる環境と整えつつ、毎週のスマイル発表に工夫を凝らしていただきました。

佐藤幸彦委員長を始めとするクラブ会報委員会の方々には、例会中の写真撮影に新しいアイディアを出して、例会の雰囲気やわかりやすい写真を掲載され、毎週の編集作業に熱心に従事され、遅れることなく週報を発行していただきました。

我がクラブの特徴となり数多く設立されている愛好会では、齋藤孝弘会長が率いるゴルフ愛好会、小林義勝監督が率いる野球愛好会、関谷亮一会長が率いる歴史文化研究愛好会、佐藤幸彦会長が率いるスキー愛好会、諸橋和典会長が率いる家族交流情報部会、これらの一つ一つが友情と親睦を深める為にレクリエーション活動を通じて集うという本来の目的をしっかりと体現し、数多くの活動を実施して会員同士のつながりを、更に強く固くしていただきました。

③若い世代とつながろう

我がクラブは昨年度までは、社会奉仕の一部門としての青少年育成と、国際ロータリーが定める青少年事業を担う青少年奉仕と、若い世代の方々をサポートする二つの委員会がありましたが、今年度はこれの一つにまとめて、新たな青少年奉仕委員会としてスタートすることにしました。

村上堅二委員長を始めとする青少年奉仕委員会の方々には、今年も白河西ロータリークラブ旗争奪CKB（チャレ

ンジケンナンベースボール) 中学野球大会の実施を通じた青少年の健全育成活動に汗を流していただきました。

白河商工会議所青年部が行う「城de白河」に協力して、自転車による町興しや青少年活動を推進したり、更にはロータリーが行う「青少年指導者養成プログラム(RYLA)」に我がクラブから二名の方を派遣したりと、さまざまな青少年に関わる事業を推進していただきました。

しかしながら、天災地変に見舞われた今年度は、「城de白河」が台風19号の影響より、またRYLAは新型コロナウイルス感染症拡大により、中止となってしまいました。しかしこれらの活動は、次年度につながるものとなったといえましょう。

④新しい会員とつながろう

我がクラブが健全に発展するには、若い方が入会していただき、新鮮な感覚でロータリー活動に従事していただくことが最も大切なことです。

高島裕委員長を始めとする会員増強委員会の方々には、入会候補の若い方々を或いは例会の卓話者としてお招きしたり、或いは事業の外部協力者としてお手伝いいただいたりしながら、我がクラブへの入会を推進していただきました。そうした中から、十文字光伸君が2020年2月に入会していただけることとなりました。

しかし、天変地異に見舞われた今年度は、入会まであと一歩というところまで話が進みながらも、結局尻込みしてしまう方が続いてしまいました。

新型コロナウイルス感染症に対する新しいワクチンが開発され、多くの方々が免疫力を持つようになるまでは、まだまだ厳しくいばらの道が続くのかかもしれません。しかしながら、創立35周年を迎える次年度は、そんな弱音をいうのではなく、会員全員で力強く入会勧誘をしてもらいたるところです。

また、成井正之委員長を始めとするロータリー情報委員会の方々のご指導により、入会三年未満の新入会員が、第2530地区県南分区インターシティーミーティング(IM)での新入会員セミナーに積極的に参加していただき、ロータリー精神の真髄を学んでいただきました。

入会三年未満の会員は一回出席する義務があるのですが、これを三年間全部出席しなければならないと拡大解釈していただき、二度三度重ねて新入会員セミナー出席するという、我がクラブ独自の積極性に目を見張るものがあります。

⑤姉妹クラブや県南分区内クラブとつながろう

青木大委員長を始めとするシスター委員会の方々には、我がクラブの三つの姉妹クラブとの交流にご尽力いただきました。まず、米沢中央ロータリークラブとは、齋藤栄助ガバナーエレクトをサポートし、第2800地区運営の準備に下期は集中したいという意向を持っておられたこともあり、年度始めに集中した交流を計画し、相互のクラブ訪問と本宮のアサヒビール園での合同例会を開催することとなりました。次に、深谷ノースロータリークラブとは、例会訪問を行い、昨年度深谷ノースよりベンチを寄贈いただいたことの返礼として、今年度は我がクラブより深谷駅前に

ベンチ二脚を寄贈したいと表明してきました。しかしながら、その寄贈式典は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、大々的に執り行うことが叶わなくなってしまいました。そして、コザロータリークラブとは、次年度我がクラブの創立35周年記念式典にコザクラブより大勢の会員にお越しいただくべく、コザクラブ訪問を計画していましたが、これもまた、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で中止とせざるを得なくなりました。

県南分区のインターシティーミーティングには多くの会員に出席いただき、RLI方式による研修と、その後の懇親会により、県南分区内のクラブとの交流を深めることが出来ました。

恒例である矢吹ロータリークラブとの観桜会は、今年度我がクラブの主管で開催する予定でしたが、これもまた新型コロナ禍により中止となり、次年度も我がクラブが主管して計画することとなりました。

II) 行動しよう

①奉仕プロジェクトとつながろう

小林義勝委員長を始めとする職業奉仕委員会の方々には、小林仁一会員がやむなく退会することになったにも関わらず、担当例会のプログラムをきちんと練り上げ、白河地域に4つの工場を持つ株式会社朝日ラバーの代表取締役渡邊陽一郎氏を招聘していただきました。渡邊社長より、会社の業績を向上させながら、従業員の福利厚生に気を配り、多くの社会貢献活動を積極的に行う、工場経営についてお話しいただきました。上場会社としての責任を果たし、社会に・地域に・社員に・社員の家族に愛される企業となるべく行われている取り組みは、まさにロータリーの奉仕活動に通じるものでした。

齋藤孝弘委員長を始めとする社会奉仕委員会の方々には、白河第一小学校の器楽クラブが日本学校合奏コンテストのソロ&アンサンブル部門で2年連続文部科学大臣賞を受賞したことの記念し、コントラバス1挺寄贈するという事業を企画していただきました。これは、学校教育資金が十分に行き届かず、素晴らしい業績を残している白一器楽クラブでさえも壊れかけた古い楽器を使用せざるを得ないということを支援する教育支援事業であります。この社会奉仕活動は、報道機関にも大きく取り上げられ、素晴らしい事業でありました。

藤田龍文委員長を始めとする国際奉仕委員会の方々には、フィリピンの日系及び一般青少年の育英資金を提供し日本への留学を支援し、日本とフィリピン両国の親善を目的とするバギオ基金の副会長で、東京臨海ロータリークラブの会員である齋藤実氏を担当例会の卓話者に招聘していただきました。齋藤副会長よりは、このバギオ基金の歴史や制度について、詳しくお話しいただきました。

そして、フィリピンのバギオに行き現地視察を通じ、バギオ基金の事業が、我がクラブの国際奉仕活動の一つの中核事業としてみてはどうかを検討しようと、積極的に行動しようとしたのですが、これも新型コロナウイルス感染症予防の為に、断念せざるを得ませんでした。

②**公共イメージを高め、ふるさと白河・世界とつながろう**
 鈴木典雄委員長を始めとするIT委員会の方々には、今年度我がクラブの独自ドメインを取得し、今日流行りのページ構成を取り入れた新規のホームページを立ち上げ、週報を載せて更新頻度を高めつつ、生きた情報を発信して、我がクラブの公共イメージを向上していただきました。

安部和夫委員長を始めとする雑誌広報委員会の方々には、国際ロータリー理事会の承認を受けたロータリー機関雑誌である『ロータリーの友』の見どころ読みどころを毎月会員にお伝えいただき、革新性と柔軟性を発揮して変わり行くロータリーの最新情報を、会員全員で共有することに努めていただきました。

白河西ロータリークラブの活動の一つ一つはクラブを代表する会長が一番よく知っているということもあり、我がクラブの公共イメージ向上活動の一部を会長直属部門として分離し、我がクラブのFacebookの書き込みは会長自ら行うことと決め、何かあればすぐさま会長が書き込むという体制を初めて整えて、年間数多くの情報を発信し、公共イメージの向上に努めました。

また、「マイロータリー」においては、ここ数年の懸案を解決しようと、全会員の生年月日を記載して登録することを端緒とし、次にロータリークラブ・セントラルにおいて目標設定とその達成状況を逐一記載して、国際ロータリーや第2530地区の中で我がクラブがどの程度のポジションに立っているかが分かるように可視化し、更にロータリー・ショーケースにおいては奉仕プロジェクトを記載して全世界のロータリアンに対し我がクラブのすぐれた実績を発信して、世界を変える行動人としての活動を強くアピールしました。

③**ロータリー財団や米山記念奨学会とつながろう**

昨年度の年次総会に併せ、「年会費の中よりロータリー財団と米山記念奨学会のそれぞれに一人当たり年額五千円を寄付する」と細則に書き込みました。このことは、ロータリー財団にあっては、1ドル110円レートとして、550ドルを年次基金に寄付することとなり、米山記念奨学会にあっては、五千円を普通寄付に協力することを意味します。

これに加えて、金田昇委員長を始めとするロータリー財団委員会の方々には、一人1000ドルを年次基金に寄付してポールハリスフェローとなつていただく方を、3人募り、公式訪問前に今年度の予定をクリアしていただきました。

また、居川孝男委員長を始めとする米山記念奨学会委員会の方々には、一人十万円を特別寄付として寄贈して米山功労者となつていただく方を、同じように早々と、3人募り、今年度の予定をクリアしていただきました。

これらの寄付協力によって、我がクラブの貢献度は一挙に高まったことは確実であります。しかしながら、一つ心残りのことがあります。

これだけロータリー財団に寄付貢献しているにもかかわらず、「世界でよいことをしよう」というロータリー財団の標語に合致する事業を立案し、第2530地区のロータリー財団委員会に申請書を提出して審査を受け、これを無事通過して、地区補助金やグローバル補助金の交付を受け、そ

の事業を実施するという、ロータリー財団補助金事業の一連の流れをフォローアップするシステムが、我がクラブに確立されていないということです。今後この対策を講じていかなければならないでしょう。

④**復興フォーラムとつながろう**

2020年3月11日には、東日本大震災より10年目に入ります。年度初めの計画では、世界から寄せられた震災復興支援に対して改めて感謝し、これまでの復興の進み具合を振り返りつつ、今後の被災地の未来への希望を世界に発信する復興フォーラムを実施するべく計画されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、中止となってしまいました。残念無念としかいいえません。

Ⅲ) **ロータリー賞に挑戦しよう**

来年度、創立35周年記念の年の第2530地区の地区大会のときに、ロータリー会長賞該当クラブとして表彰されるよう、本年度は積極的にロータリー活動を展開してきました。その意味するところは、2019-24年度の5年間の戦略計画の中で定めている、2019-20年度の年次目標の優先事項にある「人をつなぐ」と「行動する」という言葉にまとめられたいろいろな目標の中から、5項目以上でその目標を達成することです。

我がクラブの各委員会の活動そのものは例年と変わらないようではありますが、そうした無意識の内で、優先事項が定める目標を達成できるように、年度当初より何度となく、各委員会に働きかけてまいりました。

こうした努力の甲斐もありまして、有難いことに、第2530地区ガバナー月信4月号において、ロータリー賞を獲得する為に必要な目標達成の条件をクリアしているとの報告が掲載されていました。

しかも、ロータリー賞に該当するクラブの中より、更に厳しい目標達成の条件をもクリアして、ロータリー会長特別賞の「シルバー賞」「ゴールド賞」「プラチナ賞」という中で、最高位の「プラチナ賞」を獲得できることとなりました。これは、我がクラブで初めての受賞であり、ロータリアンとして大いに誇るべきことといえましょう。

このように今年度の一年間を振り返ってみると、いろいろございましたが、何といってもまず始めに思い起こされるのは、新型コロナウイルス感染症爆発的流行により、3月から5月までのほぼ三か月間という長い間、例会が開催出来ないという、前例のないクラブ運営を強いられたことです。

何をどうしていいのかわからない中で、会員の心をつなぐにまとめ、我がクラブに引き留めるような、そんな何かをやらなければならないと思いながらも、しかし、どんなことが出来るだろうかと、暗中模索していました。そのものが苦しみの中から、会員の心をつなぎ止める為、こんなときにこそ有益なロータリーの情報を伝えられないだろうかと思いつき、いろいろと試行錯誤、空回りしながらも、急遽「白河西ロータリークラブ通信」を手作りで発行してことにしました。それは結局、第7号まで回数

を重ねました。

こんな手探り状態の中で、いろいろと有難い知恵をご教示いただきました。それは、新型コロナウイルス感染で大きな損害を蒙っている会員の企業やお店を、会員同士で支え合うような事業をしましょうというものでした。そこから生まれた事業が、「お友達プロジェクト商品券発行」でした。この事業を通じて、会員相互のつながりや絆を更に強めることが出来たと思います。

さらに、社会貢献を行う奉仕団体としての本来の目的を果たす事業として、新型コロナウイルス感染者を治療することに活躍している医療従事者を支援しようと、新設される発熱外来設置に当たって「医療用防護服」を寄贈するというものでした。これは、正にタイムリーな社会奉仕活動ではなかったでしょうか。

最後になりますが、伝統ある白河西ロータリークラブの会長をどうにか務めさせていただいて、数多くの貴重な経験をさせていただきましたことは、こんな私を一回りも二回りも大きく育てていただいたと思っております。さらには、今年還暦を迎える私の厄落としても出来たと思っております。今年一年間、ご支援ご協力いただきました会員の一人一人に、心より感謝申し上げます。

そして、私よりも多くいくつもの役職を掛け持ち、多忙極まりない中にもかかわらず快く幹事をお引き受けいただいて、私の足りないところを支えていただきました兼子聡幹事には、深く感謝致します。

また、大所高所より示唆に富むご助言をいただき、会計をチェックしつつ、クラブを支えていただきました居川孝男、関谷亮一の両監事、更に、事務局の大竹茜さんにも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

次年度は、我がクラブの創立35周年の節目の年を迎えます。この記念の年に我がクラブの舵取り役を務められる吉野敬之会長と堀田一彦幹事、そして居川孝男記念事業実行委員長に熱いエールを送りつつ、我がクラブの益々のご発展をお祈り申し上げて、第34代会長としての回顧とさせていただきます。

一年間、ありがとうございました。

早口になりましたが、これは年次計画書の中の報告に載せる文章でありますから、まあ気が向いたら、といっても私も会長回顧読んだこと1回もありませんから読むことないと思いますが、読んでいただければと思っております。一年間、本当にありがとうございました。

○幹事一年回顧

兼子聡幹事



先日誕生日のお祝いをしていただいたんですけども、おかげさまで半世紀の年を迎える年に幹事をさせていただきました。当初、会長からお話をいただいた時にはなかなか事務方の仕事もしたことなかったですし、お金を扱うといえますか支払い等もやったことがないので不安だなと思っておったんですけども、こういう50年という節目の年でできるチャンスも自分の中ではなかなかないのかなと思ってお引き受けをさせていただきました。本当におかげさまでここにいる皆さん

のご協力をいただきまして何とかゴールが見えてきたのかなと思っているところですが、幹事という仕事は本当に、各委員長さん、皆さん、SAAの委員長さんもそうですし、皆さんにお支えをいただきながらやる仕事のかなと思いました。その中で一点だけ、ロータリーの活動というか奉仕とは若干違うところで私が今年一年で感じたことがあります。それを話させていただいて回顧とさせていただければと思いますが、米沢中央ロータリークラブさんとの交流事業がございました。あの時はゴルフ愛好会の皆さんがゴルフをして、本体が本宮のビール園で合流をするという段取りでありましたが、まずはホストである我がクラブが米沢さんよりも遅れて到着することになってしまいました。その時点で、もう幹事の時間管理がアウトだなと思いつつ挨拶をしていろいろ会計とか集金とかそういったものがある中で、事務局には領収証等を用意していただいていたんですけども、私も性格上強制をされるのがあまり好きではないものですから、誰かにお前来てよ来てやれよというのがなかなかできなくて、当日もスマイルがあったりとか出席報告があったりとか、そういったものの段取りを全然しておりません。司会の役もありまして、また須藤正樹委員長にはビンゴをやりたいということで千円また追加で集めるという話もあって、本当に受付けの場がごたごたしてありました。その中で私の記憶の中でだったんですけども、渡部勝也さんとかが受付けを代わりにやっていただいて、お金も集めていただいてスマイルも集めていただいて、会を進行しながら途中でいろいろ支払い等をビール園さんとした中であれだけ、当初も米沢さんにも千円集めるとか途中から集めないとか変更もあって、本当にお金のやり取りがばたばたしていた中で会が始まって私もお酒を飲み始めてしまいましたので、ちゃんと閉めないで終わらして、それは木曜日ですから金曜日、土曜日と出張でいなくて、日曜日の日に会社に行って清算しなきゃなあと、意外とこれできてもお金合わないんだろうななんて思いながら会計をやっていたんですけども、本当にもの見事にぴったり人数分とスマイル分と書いてある分とそれがぴったり金額が合っていました。いろいろな団体に所属をさせていただいておりますが、大体お酒を飲んだ時の席ってお金が合わなくて、大体時の会長や理事長にお金を足りませんと言っているような状況だったんですけども、本当にここにいる皆さんというのは奉仕の精神のもとにそういった活動も一つ一つこなしていただけるし、とても信頼ができる方達なんだなということも改めてこの年になりました。わかりました事が私の今年一年の回顧とさせていただければと思います。本当に一年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。